

専門医に聞く

女性の2大がん疾患「乳がん」「大腸がん」

食生活の欧米化など生活習慣の変化に伴い、「乳がん」「大腸がん」が女性の2大がん疾患になっています。しかし、「乳がん」「大腸がん」はともに早い段階で発見・治療すれば根治可能ながんであり、定期的な検査が最も重要です。専門医にがん発生の要因や予防法、最新の検査、治療法などを聞きました。

早期がんの5年生存率は90%以上

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。



▲レディースデイ担当スタッフ

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

乳がん

40歳代から乳がん発生率が急増

今や女性のがん患者数のトップになっている乳がん。しかも、30歳代から50歳代と、働き盛りの世代に多いのも特徴です。乳がんは早期に発見すれば根治可能ですが、欧米先進国に比べ依然として乳がん検診の受診率は低く、乳がんで亡くなる人も増え続けています。乳腺専門のくまもと乳腺・胃腸外科病院（熊本市南熊本4丁目の村本）治療部長に話を聞きました。



くまもと乳腺・胃腸外科病院
理事長 村本 一浩

親族に乳がん経験のある人は要注意

乳がんの発生率が著しく増加していることが聞かれます。乳がんは40歳代から急増し、50歳代にかけて最も多い年齢層です。また、最近では30歳代の患者さんも増えており、以前に比べ若年化の傾向が強まっているのが特徴です。

乳がんの発生要因は？

乳がんの発生要因は、遺伝的要因、ホルモンバランスの乱れ、生活習慣の変化などがあります。特に、高脂肪・高カロリー食の摂取、運動不足、肥満などがリスク要因とされています。

検査で異常が発見された場合の最終診断

乳がんの検査は、視触診だけでなく、様々な検査機器を使った総合診断が不可欠です。当院では、問診、視触診からスタートし、乳房専用のX線撮影装置であるマンモグラフィや超音波検査で、「しこり」や「石灰化像」を調べます。

手術はリンパ節転移の有無がポイント

乳がんが見つかった場合の治療法は、リンパ節や他の臓器への転移の有無、ホルモン受容体の状況などを総合的に判断し、全身評価のもとに決定します。具体的には手術療法、薬物療法、ホルモン療法、化学療法、放射線

早期発見でダメージの少ない「乳房温存」が可能

「しこり」や「石灰化像」を精密検査

乳がんの検査は、視触診だけでなく、様々な検査機器を使った総合診断が不可欠です。当院では、問診、視触診からスタートし、乳房専用のX線撮影装置であるマンモグラフィや超音波検査で、「しこり」や「石灰化像」を調べます。

手術はリンパ節転移の有無がポイント

乳がんが見つかった場合の治療法は、リンパ節や他の臓器への転移の有無、ホルモン受容体の状況などを総合的に判断し、全身評価のもとに決定します。具体的には手術療法、薬物療法、ホルモン療法、化学療法、放射線

35歳を過ぎたら定期的な乳がん検診を

乳がんの早期発見のためには、やはり定期的な検査が必要です。乳がんは初期の段階では症状がないことが多く、進行に伴いしこりなど様々な症状が現れます。しかし、腫瘍の78割は良性であり、もしがんが見つかる場合、がん細胞が乳管内（非浸潤がん）にあるうちに発見できれば、よりダメージの少

くまもと乳腺・胃腸外科病院

Chomopia Kumamoto Breast & Gastrointestinal Surgical Hospital
ケモトピア

「しこり」や「石灰化像」を精密検査

乳がんの検査は、視触診だけでなく、様々な検査機器を使った総合診断が不可欠です。当院では、問診、視触診からスタートし、乳房専用のX線撮影装置であるマンモグラフィや超音波検査で、「しこり」や「石灰化像」を調べます。

手術はリンパ節転移の有無がポイント

乳がんが見つかった場合の治療法は、リンパ節や他の臓器への転移の有無、ホルモン受容体の状況などを総合的に判断し、全身評価のもとに決定します。具体的には手術療法、薬物療法、ホルモン療法、化学療法、放射線

35歳を過ぎたら定期的な乳がん検診を

乳がんの早期発見のためには、やはり定期的な検査が必要です。乳がんは初期の段階では症状がないことが多く、進行に伴いしこりなど様々な症状が現れます。しかし、腫瘍の78割は良性であり、もしがんが見つかる場合、がん細胞が乳管内（非浸潤がん）にあるうちに発見できれば、よりダメージの少

くまもと乳腺・胃腸外科病院

Chomopia Kumamoto Breast & Gastrointestinal Surgical Hospital
ケモトピア

大腸がん

大腸がんの大半はポリープから発生

大腸がんは、大きく結腸がんと直腸がんに分かれます。その多くはポリープ（腺腫）から発生するものと分かっています。前がん病変であるポリープや粘膜に起こまる段階で病変を発見し、内視鏡で切除することが最も有効な予防法と考えられています。内視鏡専門施設である腹部胃腸科 熊本市新町2丁目の後藤英世院長に話を聞きました。



腹部胃腸科
院長 後藤 英世

定期的な内視鏡検査が最も重要

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

大腸がんは、大腸がんは40歳代から急増し、高年齢になるほど多くなります。早期の時点では自覚症状がないため、発見が遅れてしまうのが現状です。進行するにつれ血便、下痢、便秘異常、便が細くなったり、便秘と下痢を繰り返すなど、腹痛などの症状が出てきます。

内視鏡専門施設
医療法人 社団 魁正会

腹部胃腸科

〒860-0004 熊本市新町2-12-35
☎096-325-2300
FAX096-325-8845 http://www.hattori-clinic.com
全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診認定医療機関